

じやりみち

……仮設支援情報……

第17号 発行日 1996. 5. 2

阪神・淡路大震災

「仮設」支援NGO連絡会

〒653 神戸市長田区御蔵通5-5

TEL: 078-578-6921 / FAX: 078-578-6923

E-mail: ngoteam@mb.osaka.infoweb.or.jp

口座番号: 01180-6-68556 (郵便振替)

木の葉がのびるのは やわらかいから 相田みつを

決国会体会のお知らせ

次回は共同プロジェクトについてもう少し詰めようと思います。場所については前回と同じく長田区役所大会議室7階です。5月8日(水) 18:30~20:00

かせつ寿多屋の報告

学生時代から30年以上にわたって水俣病患者の支援活動をずっとやってみえる谷 洋一氏に、今回はお話をいただきました。

話の中でポイントになったのは、支援者の「自己確立」ということ。支援して行くにあたって、「自分が何のために何をしようとしているのか」しっかり見据えるべきであるし、患者のためにとか、かわいそうだからやるというものではなく、「自分たちが必要だととらえ、そして自分たち自身がどう関わっていくか」というとらえ方をすべきではないか、といったような提示がされました。

支援とはと考えたとき、関わっていく中でのお互いの関係性によってこれらは成り立つもので、お互いが平等でなければ成り立たないということや、患者のできないことを支援者がサポートしていくべきであるし、加えてこういった問題を常に社会問題化していくことも必要なことではないかと言われました。彼はそういう考え方からリサイクル石鹼工場の経営をしたり、「アジアと水俣を結ぶ会」といったアジアの問題にも関わっておられます。

今までを見つめて、本当に意味のある支援がなされてきたかどうかはわからないが、どんなに一生懸命やってもちょっとした失敗から信頼や今までの実績というのは失ってしまうこともあります。ここでは本当の人間としての価値観が問われているんだということや、これら水俣の様々な問題は水俣のものだけではなく、結局は日本社会全体の問題であり、我々の暮らしそのものであるということ、自分たちの生活から見直していくことの必要性を言われました。

最後に質問の中で、どうしていくことが長く続ける秘訣なのかという問いかけには、患者と如何に真剣に向き合ったかということが後の関係性につながってくるもので、理屈を言っていては続かないということ。理屈より感性であって、どんなに飲んだくれてばかりいるように見えても実はそれが患者の心の支えになっていたりとか。また自分に負担になるような動き方ではなく、自分のペースを保ち、それでいて真剣につきあっていくという姿勢が大切ではないだろうか、と言われました。

ガレキは走る

(全国キャラバン日程表)

5/4	神奈川県	横浜市県民センター	ガレキ・ライブ
5/5	東京都	豊島区巢鴨	ガレキ・バザー
5/7~11	東京都	調布市駅前広場及び市役所前	ガレキ・パル展示
5/12	神奈川県	横浜市	バザー
5/19	千葉県	我孫子市野外福祉まつり	ガレキ・パル展示
5/20~26	東京都	明治学院大学	
5/24	愛知県	日進市	講演会(石井)
5/26	群馬県		ガレキ・パル展示

事務局からのお知らせ

郵便振り込みの加入者名について

郵便振替口座の住所変更と名称変更に手間取りまして、やっと本日付けで変更完了しました。正式名称で登録しましたが、略称の『仮設NGO』でも旧称『仮設住宅支援連絡会』でもOKです。今後ともよろしくお願いします。

また、海藻石鹼が沢山届いています。ご希望の方は事務局山田まで。

< 仮設は今... >

須磨区編

私達は昨年(10月)より須磨区の「南落合」仮設住宅の友愛訪問をはじめました。ここの仮設住宅の友愛訪問をはじめるにあたって、週末ボランティアさんの資料がとても助けになりました。人々の必要を手取り早く知ることができたからです。

高齢者(65才以上)の方の割合が3分の1という、比較的若く健康な方が多くいらっしゃる仮設で、当時、ふれあいセンターはありませんでした。やっと自治会が結成され、団結をもたらす手伝いとして、炊き出し・お茶会・バザーなどのイベントを行い、大変喜ばれました。また「ふれあいセンター」の祝賀会にも参加させていただき、子ども達による歌と踊り、寸劇などの催しものを行いました。

仮設住民の声を聞きたいということで、今年の4月末、東京から私達の知人を通してドミニカ共和国の大使を招いたとき、自治会・住民の皆さんの「このように忙しい中、外国の大使が関心を持って訪れてくれるのに地元の議員が1人も仮設訪問をしていない」といった意見も聞かれました。

今、南落合の自治会は自らのボランティア精神により1人歩きをはじめ、「ふれあい喫茶」もはじまりました。

ファミリー神戸 師橋

じやりの一口メモ



はじめてのハーブ栽培

初夏を中心に開花期を迎えるものの多いハーブにとって、春は種まきシーズンに当たります。ざっと100種近くもあり、食用、薬用、お茶用、染色用、観賞用、ポプリやクラフト用、蝶を呼ぶもの、蜂をよぶものなどなど、用途も様々です。貴方の好きなハーブを選んでください。

✿ペパーミント・アップルミント・レモンバーム

育てやすく、利用範囲の広さという点でおすすめできるのはミント類。お茶やお料理やお菓子の香づけ、お風呂に入れるなど用途も広く、しかもとても丈夫で多湿にも強く、よく繁殖します。またキク科のカモマイルも育てやすいハーブです。

✿ラベンダー・セージ

成長は遅いものですが、苗から育てると簡単です。

✿ロケットサラダ

サラダにおいしい胡麻風味のハーブで、象牙色の花がさきます。真夏(8月)真冬(12~2月)を除いていつでも種まきができます。

ハーブは性質も様々なので、それぞれの性質のあった育て方をしてください。多くは酸性土壌と多湿を嫌い、日当たりや水はけの良いところを好み、あまり肥料が要りません。

「化粧」

(寄稿)

今回の企画のお話をいただいた時、「お年寄りにも喜んでいただけるような芝居」ということで「化粧」という演目を選びました。一人芝居でほとんど道具もいらないというフットワークの軽さがこの企画にあっていると思っていただけたこともあり、正直その頃は仮設住宅で芝居を打つ、ということの意味がまだまだわかっていませんでした。

普段私たちが劇場で芝居を打つ時はある意味で「強気」にでます。こちらサイドから最善のものを提供し、後はどんな評価も甘んじて受ける、非難するならしてちょうだいという姿勢です。芝居というものをお金を払ってわざわざ劇場に足を運んで見にくる観客。芝居の主張として毅然としたものを毅然とした姿勢で彼らに提供することが演じる側の道理であり、逆に言えばその毅然として主張さえあればこちらから観客に歩み寄って行くことは却って芝居として理不尽な感さえあるのです。「化粧」にしても同じことでした。いかにしていい芝居にするか、この芝居をいかに主張し、表現するか。そのことだけを考えて日々稽古に励んで来ました。

ところが、一月末実際に荒田公園に下見に行った時、今回の公演はそんな芝居の道理をとおすとおさない以前の所に問題があるのではないかと感じたのです。芝居というのはなんのなんの言っても絵空事です。お金を払って劇場に足を運ぶ人々は絵空事とわかって見にくる人々です。そんな人々には家に帰れば絵空事とは無縁の確固たる生活があるわけですから。けれど荒田公園の人々はそうじゃない。あの究極の追い込まれた状況の中で、果たして芝居というものがどれだけの意味をもつのか、そんな作り事もかなわないような状況の中で、作り事の権化ともいえる芝居が果たして受け入れてもらえるのか。芝居をどう見せるか、ということ以前の芝居をすることの意味について根本から問われているような気がしました。

本番前の緊張感。芝居を始めて13年になりますが、あんな緊張感を体験するのは初めてでした。手が震える。異様に震える。芝居中に煙草に火を点けるのもままならない。観客との距離が全く読めない。何のより所もなく、まさに一人で(一人芝居だから当たり前だが)裸で舞台上に立っている気がする……。

芝居が終わって暗転になったとき、一瞬の間があってから拍手が来ました。その一瞬の間がなんと怖かったことか。やはり受け入れてもらえなかったのかとぞっとする思いでした。けれど一回目の拍手が起こってくれてなんとかほっとしてから舞台挨拶。この舞台挨拶も考えました。私たちはボランティアでここに来た訳ではない、なにをを上げてあげるつもりで来たのではない、ただただ芝居ものには滅多にない機会を様々な意味で楽しませていただいた、ということだけを言おうと思いました。「この荒田公園ふれあいセンターをいつもとは違った雰囲気にして頂きました。皆様が少しでも楽しい時間をすごしていただけたら幸いに思います。」そう言った次の瞬間、思ってもみなかった2回目の拍手が起こりました。一回目よりも実に心のこもった拍手でした。役者として、一個の人間としてまさに至福の瞬間だったと思います。

芝居の後、住民の皆さんとお菓子和甘酒をいただきながらお話しした際、非常に興味深いことがありました。芝居中に大衆演劇一座の女座長に扮したわたしが「あたしの息子はねえ、北海道の岩見沢に預けてあったんです。」という場面があります。その話が女座長の息子のことではなく、わたし自身、うでまくり洗吉の息子のことだと思った方がいらっしゃいました。そこまでストレートで素直な芝居の見方は滅多にお目にかかれませんが、芝居を見ることの原点を思い知らされた気がしました。

芝居をやることの意味を根本的に問われるような気がした今回の公演。自分の人間性まで振り返されそうに非常に怖かったのですが、フラワープロジェクトの浅岡さん、ちびくろ救援ぐるうぶの福神さんを始め多くの方々のご協力となによりも荒田公園の住民の方々の芝居を見に来てくださる前向きな姿勢に支えられ、非常にいい成果をあげることができたと思います。この企画に関わった人々はみんなとても不安を抱えながらの公演だったでしょうが、一回目にして思いもかけない成果を得たこの企画に自分自身が携わっていたことを楽市楽座一同幸福に思っています。「化粧」はこういう企画に実に合う芝居だと思っています。機会があれば、また来たいと思います。それほど2月11日、荒田公園ふれあいセンターのあの数時間は役者として本当に幸福な一時だったのです。

うでまくり洗吉